

# 水害経験と備える知恵（近江八幡市安土町下豊浦）



昭和28年 決壊



この辺りの地質はスクモ（泥炭）と呼ばれ壊れやすい

昭和28年  
ポンプを8台設置して排水した

平成7年 浸水実績のある場所

この辺りの田んぼは  
冠水しやすい



明治29年 冠水  
弁天様が水にかえった



西の湖の背水の影響で水が流れにくい

明治29年  
琵琶湖洪水では浸水（全域）



明治29年 土石流



## 【凡例】

- 戦前に破堤・越水、浸水が発生した場所
- 戦後から昭和年間に破堤・越水、浸水が発生した場所
- 平成以降に破堤・越水、浸水が発生した場所
- ▲ 戦前に土砂災害が発生した場所
- ▲ 戦後から昭和年間に土砂災害が発生した場所
- ▲ 平成以降に土砂災害が発生した場所
- 水害に対する知恵を確認できる場所
- 過去の水害に対する詳細情報
- 水害に対する知恵の詳細情報

## その他の知恵

田んぼまで田舟で移動していたため、洪水の時は高台まで田舟で避難していた。

頻繁に田んぼが冠水するため、その年の一年食べる米だけ生産するのではなく、来年の夏場くらいまで貯蔵できるように生産し、蓄えていた。常に保存食(梅干し・たくわん)を保有していた。

雨が欲しくても、戌亥(北西)の方角に雲が出来ていれば、下豊浦には雨が降らないと来ない。このことを下豊浦の人たちは「来そうで来ない隣のぼた餅」と呼んでいた。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 令元情複、第422号) 第三者がさらに複製する場合には、国土地理院長の承認を得なければならない。